病児保育協議会
NEWS
一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ http://www.byoujihoiku.net/

第72号
2014年（平成26年）1月1日
〔発行人〕　会長 稲見　誠
〔発　行〕一般社団法人 全国病児保育協議会
〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-22-13 いなみ小児科内
TEL.03-3421-4885　FAX.03-3411-4936

新年のご挨拶

一般社団法人 全国病児保育協議会 会長　**稲見　誠**

あけましておめでとうございます。

昨年は、会員の皆様、役員・委員会の皆様には大変お世話になり、心から御礼申し上げます。

昨年４月より資格認定の講習や面接・小論文が始まり、資格認定委員会・各委員会の皆様、講師・面接官の皆様には本当にご苦労をお掛けしました。おかげさまで他団体などが行っている資格制度に比べて、周りの評価や関心は大変高いものになっております。資格を取得された方は、それで終わりではなく病児保育の発展のために積極的に活動していただきたいと思っております。

さて、現在内閣府において子ども子育て会議が月に２回程度のペースで開催されています。病児保育に関しても、今後の方針を討議しております。私も協議会会長として１）病児保育の現状、２）病児保育の不採算性（特に地方の利用者の少ない施設の救済）、３）職員配置の改善、４）病後児保育に医師手当を付けて、回診を含めて医師との連携充実の必要性、５）開設時の初期費用や家賃補助、６）子育てステーション機能に対する補助、７）研修・研究費に対する補助、８）その他、などの意見陳述を行いました。

また平成27年度施行予定の子ども子育て３法において、病児保育は地域子育て支援事業に分類されています。これは保育所などと異なり、自治体が必要に応じて行う事業であり、それを国が支援するというものです。

つまり自治体の病児保育対する熱意が重要であり、そのためには地域で活動している皆様の力が必要です。地域の皆様が、それぞれの自治体に働きかけてより良い病児保育を作り上げていかなければなりません。

私自身、大変微力ではございますが、本年も全国病児保育協議会の発展のために頑張る所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。

第24回 全国病児保育研究大会 in 東京

『安心・安全な病児保育 ～信頼される専門性を求めて～』

開催期間　平成26年7月20日（日）・21日（月・祝）（2014）

会場　きゅりあん（品川区立総合区民館）
東京都品川区東大井 5-18-1

- 会　　頭　稲見　誠（いなみ小児科　病児保育室「ハグルーム」）
- 実行委員長　大川　洋二（大川こども＆内科クリニック 病児保育室「うさぎのママ」）

東京大会情報を随時更新していきます。お楽しみに！！

ホームページ http://web.apollon.nta.co.jp/hoiku2014/

2014年度抱負

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長　大川　洋二

新年明けましておめでとうございます。

本年も皆様と共に学び病児保育事業が充実することを期待します。昨年度始まった病児保育専門士、病児保育専門看護師制度は順調な滑り出しのようです。いろいろ問題点はありますが、皆様と共に知恵を出し合い完成された制度にいたしましょう。第１期の保育専門士、専門看護師が次世代の専門士を育成するのです。１期生に課せられた期待と責任は大きいものです。ともすれば医師の主導の色合いが濃い病児保育協議会でしたが、今年からは一緒に同列で手をつないで前進できることでしょう。この制度の充実が病児保育の確実性、信頼性を得、全国病児保育協議会の組織率の上昇につながることを期待しています。

本年度は病児保育マニュアルの改訂を目指しています。全面改訂ですが、現在のマニュアルの第２部を先行して改訂する予定でいます。保育看護、小児医学、感染法、事故防止、インシデント関係の実践編です。各自１冊ずつ必携となるように企画しております。専門士制度研修会の新しいテキストとなるように改定を進める予定です。

今年の全国病児保育研究大会は24回目であり、東京大井町のキュリアンにて７月19日、20日に行われます。楽しいワークショップと病児保育施設のレベルの高さが示される充実した一般演題が中心です。積極的に参加し、発言してください。病児保育は与えられるものではなく、参加施設を支える皆様によりさらに充実した制度として完成させていくものであることを実感してください。

今年１年の病児保育活動をとうして、皆様が充実感、とちょっと誇らしげな気持ちを持っていただけるよう期待しております。今年の干支は午、何があっても万事塞翁が馬です。

感謝と決断

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長　羽根　靖之

新年明けましておめでとうございます。

昨年、当協議会は一般社団法人として再出発致しました。また、病児保育専門士資格認定制度という新事業も立ち上がり、さらに充実して参りました。思い起しますと、ここ数年間の協議会の動きは激動と言った感じでした。それは、協議会が発展して行く為のステップとしては、通らないといけないハードルをいくつも越えて来たという感じがしております。これらの動向は、協議会の役員や委員をして下さっている方の御協力と滅私奉公の精神があったからこそ越えて来れたものと感じております。あらためて感謝を申し上げたい所存です。

しかし、その反面で、組織としての未熟さも感じる時がありました。それは、細かな点ではありましたが、常にＭＬ等を通じて早々に協議などしながら、解決して乗り越えて来た感があります。幸い、役員の皆様には、他の学会や医師会など様々な分野で御活躍の方も多く、その都度、建設的で的確なアドバイスを出して頂きながら解決して来ているという印象があります。

会員の皆様方には、このような協議会の裏方で支えて下さっている方達の御苦労や御努力があまり知らされていない事と思いますが、私は役員の一人として、会員の皆様に知って頂きたく、あえてこの場をお借りして書かせて頂きます。それは、役員や委員の皆様が病児保育への熱い思いがあるからこそできているという事、そして、今以上に病児保育が世間にも認知され、ユーザーの方にも満足して頂けるものに育てたいという意識があるからこそ滅私奉公の精神で協議会を支えているという事を知って頂きたいと思ったからです。

そして、今、私の中で新年を迎えての抱負を申し上げる前に、先ずは協議会を今まで支えて来て下さった多くの先輩や同志に感謝を申し上げたい所存です。その上で、今年に向けての抱負はと考えると、決断ではないかと思っております。何か一つを決断すると言うのでなく、あらゆることに即決即断の対応が必要となってきていると感じております。今後も、稲見会長を支え、即決即断できる副会長を務めるべく努力したい所存でおりますので、宜しくお願い申し上げます。

新年をむかえて

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長　**原木　真名**

あけましておめでとうございます。

昨年度は病児保育専門士の認定制度開始という、当協議会でも大変記念すべき年でした。病児保育専門士の卵の皆さんが真剣に講習を受ける姿に、病児保育協議会の深さと厚さを実感しました。ことしは、制度を整理し、深めて行く年でもあると思います。

病児保育が市中に浸透するにつれ、さまざまな企業の進出も見られてきています。待機児童ゼロ政策などにともない、病児保育だけでなく保育園などの子どもたちが育つ場も、大人の都合、営利主義に傾いてきているような気がしてなりません。子どもの立場にたって、子どもたちの健康と育ちを最優先に考えるというベースを持った私達がしっかりと踏みとどまって、子どもたちを守っていくことが大切だと思います。今こそ、当協議会の存在意義が明らかになってきたのではないでしょうか。

本年もよろしくお願い申し上げます。

各種委員会の抱負

感染症対策委員会

感染症対策委員長　**大川　洋二**

新年あけましておめでとうございます。

2014年度の感染対策委員会の活動についてご紹介いたします。定期の企画として第24回病児保育研究大会での感染症セミナーです。今年度は外部から講師をお招きして、感染免疫について解説いたします。わかり易い講演と定評のある東京医科歯科大学名誉教授矢田純一先生にお願いいたしました。

また委員会よりガイドラインについてのアンケート調査、室内感染症例の研究、今年度のガイドライン改訂ポイントについて解説いたします。今年度もアンケート調査を行いますので御協力ください。また室内感染例のご報告もお願いします。皆様のご協力で室内感染しやすい疾患が、インフルエンザ、水痘、感染性胃腸炎であることがわかってきました。さらに分析を進めたいと思います。室内感染症例を共有することが安全な保育をもたらします。

出張講演では昨年度は大阪支部総会で行いましたが、今年度もご要望があれば行う予定でいます。できれば３－６か月前にお申し込みください。またマニュアル改定についても現在のガイドラインを改訂及び新たな疾患の追加を行いたいと考えています。

病児保育専門士認定委員会

病児保育専門士
資格認定委員長　**永野　和子**

あけましておめでとうございます。

資格認定委員会では、（一社）病児保育協議会の長年の念願であった、病児保育専門士の資格認定事業を開始し、昨年東京、大阪で資格認定講習会を開催いたしました。２月には九州会場で第３回目の資格認定講習会を開催いたします。23時間という長丁場の講義、その後のレポート、そして口頭試問と高いハードルを課してのスタートで、どのくらいの方が参加していただけるのかと心配もいたしましたが、予想以上の反響の大きさに驚きました。受講された方が「参加してよかった」と言っていただき安堵もいたしました。そして、いよいよ、７月の全国病児保育研究大会で、第一期生200名余りの「病児保育専門士・病児保育専門看護師」が誕生いたします。安心・安全な病児保育の必要性が高まってきており、行政をはじめ各方面からの反響も大きく、病児保育専門士・病児保育専門看

護師への期待の高さをひしひしと感じています。
今年も、委員一同、本邦で唯一の病児保育のスペシャリストを養成するために、質の高い講習会を開催できるよう尽力してまいります。

調査研究･インシデント管理委員会

調査研究・インシデント管理委員長　**向田　隆通**

あけましておめでとうございます。
平成26年は、病児保育協議会にとって重要な年になりそうです。協議会は、子どもにとって安心・安全な病児保育を行うため、保育看護のスペシャリストを育てることを目的として、病児保育協議会認定　病児保育専門士・病児保育専門看護師の制度を始めました。先日、横浜市で保育ママが預かっていた１歳児が急死しました。
現在の所、原因は肺炎が考えられているようです。原因が病気であったとしたら、なおのこと、預けるのが適当だったか、預かるのが適当だったか、預かって問題はなかったのか、検証が必要です。病児保育、病後児保育を行う私たち協議会の施設にとっては、今後、ヒヤリハット、インシデント報告等、危機管理の徹底がさらに重要になってきます。ちょうど今年は、病児保育マニュアルの改訂の予定になっており、危機管理等の項目は大きく改訂予定です。加盟施設で不慮の事故が起こらないように、危機管理を徹底できるように努めてまいりたいと思います。
平成25年度に目標としていた、大学病院を始め病院等での病児保育についての調査はまだ手付かずですが、年度内または、平成26年度の早いうちに取りかかりたいと思います。
病児・病後児保育施設の多くは赤字で運営されています。今年度の実績調査の分析で、厚労省への要望で具体的な数字をあげる事ができそうです。補助金の増額につなげたいと思います。
これら、委員会の活動も、委員の方々の多大な努力によって行われていることを感謝したいと思います。

機関誌編集委員会

機関誌編集委員長　**原木　真名**

機関誌＜病児保育研究＞は、今年は、５号の発行にむけて現在編集作業中です。年々投稿していただく原稿の内容が豊かになり、病児保育室における保育看護の成熟度がうかがわれる内容になってきていると思います。皆さんの日々の活動を、論文として是非投稿してください。論文化することで、日々の活動を振り返ることにもなり、新たな視野が開けます。また、活動を他の施設につたえていくことで、施設どおし切磋琢磨してより質の高い病児保育室を目指すことにもなります。ご投稿お待ちしています！

広報委員会

広報委員長　**宮﨑　　豊**

昨年７月より、広報委員長を仰せつかっております。どうぞよろしくお願いいたします。
2014年もこれまでに活動に引き続き、病児・病後児保育の質をより高めるために、行政の動向や保育の実践に関するさまざまな情報を会員のみなさまにお届けし、かつ、保育の専門性を社会に伝えられるように広報誌、ホームページにて迅速な情報発信を心がけるとともに、諸学会で病児保育専門士の認知度を高めて参りたいと考えています。
また、情報発信の即時性を高め、会員間の交流

を促進させるために、Facebookの活用なども検討し、新しい動きを創って参りたいと思います。

本年夏には、昨年より講習会を重ねて参りました病児保育専門士の認定がなされる予定です。専門士の方々の保育実践と多岐にわたる地域活躍の様子も取り上げながら、保育の必要性と専門性を発信したいと願っています。

発信には、会員の皆様のお力が欠かせないものとなります。さまざまな声を聴かせていただきたく存じます。よろしくお願いします。

研修委員会

研修委員長　**帆足　暁子**

2014年度におきましては、研修委員会では、更なる基礎研修の充実と、ステップアップ研修の構築を中心に委員会活動を行って参ります。昨年度は「基礎研修の出張講座」依頼が２件ありました。

全国大会の基礎研修にはなかなか参加できないスタッフの方々や、新規のスタッフの方々に、必ず１回は受講して頂けるような「基礎研修」の在り方を更に検討していきたいと考えております。

また、昨年度から開始されました「病児保育専門士・病児保育専門看護師」の認定講習と、基礎研修・ステップアップ研修との位置づけを明確にし、協議会における研修総体を皆さまに掲示できるように、委員会で検討していきたいと考えております。

そして、2014年度は必携新病児マニュアルの改訂も行われます。研修委員会では保育看護をはじめ、保育領域や看護領域の分担執筆も課題となっております。保育士・看護師を中心とした研修委員がそれぞれの領域に責任をもちながら分担執筆を行い、これまでの研修内容を反映させ、より研修会において利用されやすいマニュアル作成を目途としております。

法人化されて２年目となり、施設数も年々増えています。研修委員会としましては、病児保育の現状に合わせた研修の提供が責務と考えております。その為にはできるだけ多数のスタッフの方々のご意見を反映しながら、皆さまに還元できる研修の在り方を討議していく必要があります。是非、研修委員会に多数のご意見をお寄せ下さい。

保育園型プロジェクト

砂原保育園 病後児保育室「とまと」園長　**髙橋　広美**

■ 保育園ＰＴの取り組み

保育園型がプロジェクトチームとなって次期大会は３回目になります。協議会の中で保育園併設型の理解が深まるためにはどうしたらよいか、少ないメンバーですが、知恵を出し合って少しでも会員の役に立つように計画しています。

熱い思いや使命感はあるのだけれども利用数に伸び悩んだり、クリニックとの関係がうまく取れなかったりしてくじけそうにある時もありますが、保育園併設の病後児保育室でゆったりと温かなケアの中で回復して、元気に保育園に戻っていく子ども達を見ていると、病児保育室と保育園の中間地点である病児後保育室の大事さを強く感じます。

協議会会員の内88施設が保育園併設型です。病児保育室が多数を占める中で、保育園併設型の働きを理解して頂きたい気持ちもあります。

また、国の制度が変化し行く中、認定こども園に移行するのか、それともこのまま保育所として残るのか決断しなければならない時期が近付いています。そうなった場合、病後児保育事業はどうなるのかなど、施設長として先を見通さなければならない重い課題もあります。

次回東京大会ではこのような願いを持ちながら、「地域のクリニックとの連携」や「病後児保育室の保育の深まり」というような点について議論を深めませんか。

実践発表や情報交換をしながら、顔を突き合わせ、言葉を交わしながら学びを深めましょう。

参加者メンバーで保育園PTを豊かに育ててほしいと願っています。

千葉県・千葉市支部 合同研修会

平成25年９月29日(日)に、千葉市京葉銀行プラザにおいて、千葉県・千葉市支部合同研修会が開催され、市内７施設、県内16施設、計23施設88名の参加がありました。

始めに千葉県こども病院医療局長　星岡　明先生による『食物アレルギーの基本的な知識とアナフィラキシー対応について―エピペンの使い方を含めて―』の講演がありました。

2012年12月に起きた東京・調布の小学校での誤食による死亡事故を例に、事故発生の要因、発生防止対策についてのお話があり、また食物アレルギーの基本的な知識をレクチャーして頂きました。

また、緊急時対応としてのエピペンの使用法を参加者同士で確認しました。エピペンを初めて扱う保育士も多く、実際にデモ機を使用してみることにより、とても参考になりました。

次に、各施設に事前に行ったアンケート「病児保育室での食物アレルギー児の扱いについて」の集計結果を元に、千葉県支部長より問題提起がありました。その後、グループワークを行いました。

保育士、看護師、調理師など違う立場から、各施設での対応や問題点・改善点など時間いっぱいまで活発な意見交換が行われ、各グループの発表を聞き、日々の保育に役立つ有意義な会となりました。

ポピンズルーム　小 坂 暢 子

第8回 全国病児保育協議会愛知ブロック交流会

平成25年９月８日（日）第８回全国病児保育協議会愛知ブロック交流会が名古屋市守山区休日診療所で行われました。16施設の医師、看護師、保育士65名が出席しました。今回は施設の現状や問題点を話し合うことで保育の質を高めようと、意見交流会を行いました。

まず朝の子供の受け入れの体制について話し合いました。利用者が同じ時間にくると一人のスタッフが複数の子供の対応をするのが大変、受け入れが重なった時でも電話対応をしなくてはいけない時がある、赤ちゃんが泣いて抱っこしないといけない状態になると保育士の手が足りず、施設内の他のスタッフに助けを求めなければならないなど、多くの保育士が難しさを感じていました。

その時間帯だけでも保育士を増やしたいが運営上は難しい。どの施設も苦労している。他にも予約の受け方やインフルエンザなど感染症の隔離のための部屋割りの仕方などがテーマにあげられました。

病児保育はその特性のため日々の利用者数が安定せず利用する子供が毎日違う。病状だけではなく年齢も違う子供が来るため、通常の保育施設と比べて配慮すべきことがとても多い。今回のブロック交流会では普段会う機会がないにもかかわらず、日頃の不安な思いや疑問を素直に話し合うことができ有意義な時間となりました。より良い保育環境を整えていくためのきっかけになったのではないかと思いました。

おがたファミリークリニック
病児保育室 doudou　緒 方 里 美

事務局の年始は 1月7日 からの始動となります。よろしくお願い申し上げます。

第８回 石川県支部交流会報告

平成25年６月２日（日）金沢市教育プラザ富樫に於いて、第８回石川県支部交流会が開催されました。参加施設の内訳は病児保育（金沢市６、内灘町１）、病後児保育（野々市市１）、体調不良児保育（金沢市１、白山市１）で参加人数は28人（医師２、看護師５、保育士19、その他２）でした。例年通り、プログラムの前半は講演と実習、後半はグループに分かれて各施設の現況の話し合い、という２部構成としました。

今年の講演は「病児保育室でできるネイチャーゲーム」と題して、日本シェアリングネイチャー協会の木谷一人先生をお迎えしました。４種の葉による匂い袋を使った嗅覚遊び、木の葉を使ったパズル作りやかるた遊び、ブラックボックスに手を入れて木の葉や木の実をあてる触覚遊び、草木を使って光にかざすオーナメント作り等々、室内でも清潔に自然を楽しむ術を伝授して頂きました。

その後、今年よりスタートした全国病児保育協議会認定「病児保育専門士」への参加者の関心が高いことから、現在資格認定試験の講習を受講中の３人の保育士の方から経験をお話いただきました。５つのグループに分かれての話し合いでは、日頃の保育

看護の中での悩み、与薬や予防接種に関する疑問などが出され、他の施設の運営方法や医師による助言が参考になったという感想が寄せられました。

保育看護の質の向上には「病児保育専門士」の資格取得を目指すことが、ひとつの方法として役立つと期待されています。また、病児保育では医師との連携をいかに迅速に行えるかということが重要ですが、病後児・体調不良児対応の施設運営や医療機関併設という標榜の内側には多様な現実があります。協議会本部と連携しながら、保育看護の質を担保するべく、支部長以下工夫していきたいと考えています。

横井小児科内科医院病児保育室「こりすの里」　**横 井　　透**

第4回 全国病児保育協議会 四国ブロック研修会 in 愛媛

平成25年６月16日、愛媛県四国中央市福祉会館において、『第４回 全国病児保育協議会四国ブロック研修会 in 愛媛』を開催し、四国４県22施設から74人の参加がありました。

午前中は『病児保育に必要なアレルギーの知識』と題し、愛媛生協病院　有田孝司先生に講演いただきました。アレルギー性疾患の基本と保育園におけるアレルギー性疾患の現状について、食物アレルギーの臨床像や各種ガイドラインに基づく診断・治療管理について、保育所における給食・離乳食の工夫・注意点について説明いただきました。また、最近試みが行われている経口免疫療法の実際についてもお話していただきました。

アトピー性皮膚炎について病態・ガイドラインに基づく細やかなスキンケアの方法や外用療法について、食物抗原との関連について、気管支喘息の病態ならびに発作時の対応方法、誘発因子としてのダニ・カビ対策、病児保育施設における環境整備の具体的

な方法を教示いただきました。

講演の中で、食物アレルギー児の病児保育施設での給食対応は、「完全除去食対応」とすることが望ましいと提言がありました。

食物アナフィラキシーについて、具体例や最近起こった食物アレルギー死亡事故を例に挙げ、臨床像と対応法、特にアドレナリン自己注射（エピペン®）使用の実際を、エピペン練習用トレーナーを使いながら学習しました。

午後からは、一般社団法人　全国病児保育協議会研修委員会出張講演と施設長会議の２つの分科会

を開催しました。

出張講演では、ＯＣＦＣ病児保育室うさぎのママ　大川洋二先生による『急変を見抜く小児の診方　貴方の目が、耳が病児を救う』を開催しました。

子どもの急変を見抜くには、子どもの様子をよく観察すること、病状聞き取りが重要であり、そのためには医学的知識が不可欠です。今回は、小児の身体的特徴の理解、呼吸困難の評価･チアノーゼの評価･脱水の評価・意識レベルの評価・痙攣の評価・アナフィラキシーショック・腹痛・下痢などの消化器系の異常について実際の映像を交えてご講義いただき、子どもの発達、視聴覚・運動能力・生活習慣行動を理解した上での小児の急変を見抜く観察『い･ろ･は』と『あ・い・う・え・お』の評価法について学ぶ機会を得、現場に携わる保育士・看護師にとって実践的なわかりやすい研修になったように思います。

四国ブロック初の試みとなる施設長会議には11施設の参加があり、①補助金交付体系について②病児･病後児保育事業実績報告のありかたについて③病児預かる上での医師の診察・医学管理の診療報酬の徴収について④医療機関に併設されていない施設の状況⑤施設利用のモラルについて⑥医師連絡票について⑦認定病児保育専門士制度について⑧地域での病児保育実施状況の把握について⑨広域化について⑩保育士の確保について　など、日常運営におけるさまざまな課題・問題、病児保育をめぐる最近の情勢について活発な意見交換が行われました。

また⑪今後のブロック会の運営について⑫2014年度のブロック会開催についての意見交換も行われました。

最後に、全体会において病児保育室キッズハウス　向田隆通先生より『病児保育専門士認定制度について』説明があり、さらなる病児保育の質的向上・専門性の向上のための制度であることを参加施設が認識する機会を得ました。

四国ブロックにおいては、各県支部の持ち回りでブロック会を開催しています。一般社団法人化され、支部の位置づけは明確になってきたように思いますが、ブロックの位置づけが不明確で自主的運営のように思います。今後、全国病児保育協議会の中でご協議いただけると幸いです。

愛媛支部長　**藤 枝 俊 之**

平成25年度 大阪支部総会･講演会報告

本年度から支部長を拝命しました病児保育所つくし・協仁会小松病院病院長の原田です。12月７日午後に平成25年度支部総会・講演会を開催しました。総会の冒頭で会則に従い、支部長交代の承認を戴き、平成24年度と平成25年度の事業と会計の報告をしました。続いて中野こども病院理事長木野稔先生より、本年度より開始された「一般社団法人全国病児保育協議会認定病児保育専門士」資格認定の意義と実施状況を報告戴きました。最後に浜本小児科・浜本芳彦前支部長から「大阪府内病院の院内保育所・病児保育所の現状」についてアンケート結果報告を戴きました。

講演会では、全国病児保育協議会副会長・感染症対策委員会委員長大川洋二先生をお招きし、病児保

育室こひつじ岸本範子看護師の司会で、「病児保育感染症ガイドラインの解説と保育室からのＱ&Ａ」と題して、セミナー形式で講演戴きました。病児保育室での感染症対策のエビデンスを作っていく方針と、参加者に語りかける講演内容は、たいへんに分かりやすく参加者のアンケートでもたいへんに好評でした。

懇親会では、ワインとマラソンを愛し、じっくり外来との名称で20 ～ 30分かけて予約診療をする大川先生のお人柄に接することができ、たいへんに楽しく勉強になる懇親会でした。総会に48名、講習会に62名、懇親会に20名の出席を戴き、多数のご参加を戴き、たいへんにありがたく感謝致します。

大阪支部長　**原 田 佳 明**

加盟施設紹介

施設名　NPO法人ふれあい館ひろしま　病児保育室「さくらんぼ」

所在地　〒725-0026 広島県竹原市中央二丁目4-3
TEL：0846-22-9100
FAX：0846-27-9010
http：//www6.ocn.ne.jp/~fureai07/

記入者名　岩本正則（理事長）

開設日　2008年4月

定　員　2人

スタッフ　看護師４名
その他１名
嘱託医１名

ふれあい館ひろしまは、子育て支援を中心とした複合施設です。病後児保育の他、子育てひろば、一時預かり、各種相談等多様な支援を行っており、地域の拠点施設として多くの方に利用していただいています。

「さくらんぼ」は市の委託事業として2008年４月に開設しました。定員２名と小規模ですが、とても家庭的で子どもとのかかわりを大切にしています。日々の過ごし方についても、子どもたちが安心して楽しく過ごせるよう、工作、お絵かき、音楽などを取り入れ、雰囲気づくりに努めています。「とても手厚い保育看護をしてもらえている。」と保護者から好評を得ています。また、リピーターが多いのも自慢の一つです。子どもたちから「楽しかった。また、来たい。」と言う声をきいた時は最高です。スッタフ一同やる気満々です。

研修テキスト、感染症ガイドラインの講演を致します

地区勉強会、ブロック会への出張講演をお引き受け致します。

昨年度研修委員会では基礎研修テキスト、感染症対策委員会では感染症ガイドラインを作成致しました。その普及に努めるためにブロック会あるいは地区勉強会に解説にお伺いできるよう努める予定です。御要望がある方は希望する項目を明記して事務局に講演の３カ月前までにお申し込みください。講演項目が複数ある場合は優先順位をお付け下さい。講演予定日は日曜日にお願い致します。御依頼があっても講師の都合でお断りすることもありますがご了承ください。

研修委員会委員長　帆足暁子
感染対策委員会委員長　大川洋二

突撃！保育室のお昼ごはん

施設名：**病後児保育室「ひよこのいえ」**
（ひよこ保育園内）
定　員：４～６名

今回の献立はこちら

今年初の気温０度という冷え込みの日にあったかおでん♨温まりました。

ひよこ保育園は市の認可保育園であるため、メニューは市の給食部会で、毎月、各保育園から栄養士さんが集まって構成されます。

病後児保育を利用する子どもたちの給食は、状態に合わせて胃腸食やアレルギー食などその日のメニューをアレンジして頂いて対応しています。

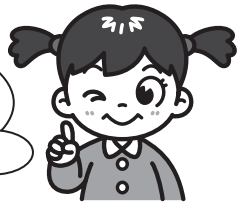
保育園の行事にあわせて行事食になる日は、お誕生会メニューに組み込まれるこいのぼりサンド・ケロドッグ・雛いなり・ハロウィンクッキーなどなど、子どもだけでなくスタッフも楽しみにするほどです。

『突撃！保育室のお昼ごはん』では保育室の昼食をご紹介します。昼食に関すること、取り組んでいることなどのたくさんの情報をお待ちしております！
次号掲載の締め切りは**2月28日**です。
宛先は、広報担当 岸本まで。

お誕生会

みんなにききたい！

今号は Question のみとなります！初めて建物の構造上のご質問をいただきました。



次回のQuestion

『皆さんの施設では、感染症の子の部屋に行くまでの道のり（廊下など）はすべて別々になされていますか？』(保育士)

増築などで、お部屋を増やした場合など、廊下だけは共通、通常のお部屋を通って入室、など、いろいろなパターンが考えられますね。

そんな制約を受ける施設でも、感染予防のためにされている工夫などがあれば、あわせてご返答いただけると、参考になります！

「みんなに聞きたい！」コーナーでは、皆さんからのご質問、ご意見を募集しています。日々の保育看護でのちょっとした疑問、質問など、どんどんお寄せ下さいね！お待ちしています。

郵　便：〒080-0038 北海道帯広市西15条北４丁目２－７
ＦＡＸ：0155-67-1141
E-mail：hinatabokko-kikitai@memoad.jp
「ひなたぼっこ」 常丸宛

編集後記

2014年がスタートいたしました。
今号は、各委員会　委員長の新春の抱負をお届けいたしました。病児保育協議会の活動が益々活発となり、輪が広がっていくことを心より願っております。
（広報委員会一同）

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会
担当：宮　﨑　　豊
〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1
玉川大学 教育学部 宮﨑研究室
FAX.042-739-8030
E-mail：miyayuta@edu. tamagawa.ac.jp

Printed by AIKOHA